



三到図書館 ニュース

2013年4月発行
No.72

J. F. Oberlin University Library

- ◇巻頭メッセージ
- ◇新生へのメッセージ
- ◇読書運動プロジェクト
- ◇図書館を活用しよう
- ◇図書館の思い出
- ◇図書館からのお知らせ

◆ 巻頭メッセージ

自然科学の本に親しもう

～三到図書館長 就任挨拶に代えて～

図書館長・リベラルアーツ学群教授 秀島 武敏

新入生のみなさん入学おめでとうございます。在校生のみなさんはじめまして。4月から図書館長となりました。自然科学を専攻している人、自然科学基礎（物質の世界）を受講した人以外はなかなかおめにかかることはないですね。普段は図書館の隣の理化学館に住んでいます。2007年リベラルアーツ学群が発足し自然科学分野の専攻ができました。最初は基礎数理専攻という名で何かわかりにくい専攻名でしたが、3年前から数学、物理学、化学、生物学、地球科学の5つの専攻名となりわかりやすくなりました。私の専門は化学です。

自然科学と聞くと“私は文系だから数学や理科は難しくわからない”と思っている人も多いと思います。一生涯自然科学と無縁で過ごすと思っているかもしれませんが。しかし実社会に出てみると数学、理科の知識が必要だと思う時が必ずきます。20年ぐらい前の大学では教養部（教養課程）というものがあったて1～2年過ごした後、専門課程に行くということになっていました。教養課程では人文科学分野、社会科学分野、自然科学分野各々12単位取得しなければならないことになっていました。文系の学生でもある程度の自然科学の知識を学ぶ必要があったわけです。逆に理系の学生でも文系の講義を多く受講しなければ専門に進めませんでした。大綱化ということで各大学カリキュラムが自由となり、自然科学の科目がなくなった大学もありました。しかしリベラルアーツ学群では自然科学基礎として最低2単位取得しなければなりません。

図書館には多くの自然科学の書物があります。私自身も今まで自然科学の教員が少なかったから、あまり

多くないのではと思っていましたが、結構揃えてあるのにはびっくりしました。最近どんどん増やしていますので、利用されることを期待します。わかりやすく書いた本、講義の参考となる本、専門の本など4階の書架に揃っています。また3階には各先生の指定図書もおいてあります。



図書館に行かなくてもインターネットで検索する方法もあります。学内でインターネットにつないであるパソコンであれば、多くのデータベースを検索することができます。自然科学では『MathScinet』と『化学書資料館』があります。たとえば『化学書資料館』は『化合物検索』、『化学便覧 基礎編』（2冊）、『化学便覧 応用化学編』（2冊）、『実験化学講座』（31冊）、『標準化学用語辞典』（1冊）等の本の内容が集められたものです。『化合物検索』では化合物の構造、分子量、色、融点、沸点などを調べることができます。さらに詳しく物質の性質を調べたかったら『化学便覧』を利用します。『標準化学用語辞典』は文部科学省『学術用語集 化学編』に収載された用語に、正確・簡潔な説明を加えた使いやすさに定評のある用語辞典です。新しく実験を始めようとする人にもすでに研究者になっている人にも役立つ実験の原理、方法などが詳しくのっているのが『実験化学講座』です。化学とは無縁の人でもニュースなどで問題になる物質を調べるときなどにこのデータベースを利用すると便利です。

学生時代に読んで感銘を受けた本



『人生論ノート』

三木 清 著／新潮社

教職センター教授 樽松 かほる

高校生の頃、私は他の同世代人と同様、人生とは何か、生きる意味は何なのかを思い、不安と苦悶の中にあつた。そんな自己の悩みへのヒントや慰めを見いだそうとして多くの本との出会いがあつた。その内の一冊のみを挙げよといわれれば、やはり、三木清の『人生論ノート』であろう。

悩みの中の一つに洗礼の問題があつた。ノンクリスチアンの家庭ではあつたが、5歳の時から教会学校に通つていた私は、中学を卒業する頃すでに牧師から受洗を勧められていた。ある時、キルケゴールを読み、神を否定しているのに神の存在を心の奥深いところで信じているヨーロッパ人の精神構造を知って愕然とした。自分は自己の認識の中においてのみ神を捉えているのではないか、敵わない、クリスチアンにはなれないと思つた。しかし、吉川英治の『親鸞』に出会い、日本人でも優れた宗教人がいることを知り、夕食の時にそのことを父に話すと、三木清も親鸞について書いているという。三木の全集を手にしたが、とりわけ文学的、哲学的な23篇の短い随想を取めた『人生論ノート』は衝撃的であつた。その中の「怒について」の冒頭は、「Ira Dei (神の怒)、——キリスト教の文献をみるたびにつねに考えさせられるのはこれである。」から始まる。神の「怒は啓示の一つの形式である。怒る神は法則の神ではない。」「神の弁証法は愛と憎しみの弁証法ではなく、愛と怒の弁証法である。」というのを読み、神の義と愛、神の恵みを感じて、自分をキリストに託す決心をした。18歳までに後約1ヶ月というイースターの日に洗礼を受けた。

請求記号：SB／み-5-1

『眼と精神』

M.メルロ＝ポンティ 著／滝浦 静雄、木田 元 訳／みすず書房

大学院 心理学研究科教授 山口 一

『眼と精神』はM.メルロ＝ポンティが1960年に書いた遺稿である。「見えるものと見えないもの」の一部として書かれたこの小論文は後期のメルロ＝ポンティの思想の具現物であると共に優れた絵画論である。絵画は二次元のキャンパスに描かれたものであるに、何故我々に「世界そのもの」あるいは「人間の本質そのもの」を見せてくれるのか。その謎についてメルロ＝ポンティは、ヴァレリの言葉を借りて「画家はその身体を携えている」からと述べている。つまり、我々は主体となって対象を認識するというだけでなく、世界の一部としての見られるものすなわち身体を持つものであるからこそ、「世界そのもの」あるいは「人間の本質そのもの」を絵画に見ることができるのである。

この本に出会ったのは医学部2年の頃である。医学的にみれば精神も脳から出来ているものであり、精神医学の研究は生物学的な研究が主流であつた。一方、精神分析については形而上学的に見え魅力的に映らなかつた。その中で、現象学は単なる物質に還元されない人間や事象そのものをとらえる新たな方法として注目した。興味を持った私は現象学の始祖として有名なフッサールの『現象学の理念』、『イデーン』を読んでみたが理屈が多く難解な表現に苦戦した。そこで出会ったのがメルロ＝ポンティである。とりわけ『眼と精神』は具体的な絵画が対象であり、フランス流の洗練された文章は、今まで名画を見た体験を生き活きと解き明かしてくれたことから非常に感銘を受けた。この本でさらに現象学に興味を持った私は、ハイデッガーの『存在と時間』や現象学の臨床的な展開であるビンズワング『現象学的人間学』、ブランケンブルク『自明性の喪失』等を読むことができたのである。

請求記号：135.9／Me66／t

『オシアン：ケルト民族の古歌』 中村徳三郎 訳／岩波書店

ビジネスマネジメント学群准教授 大塚 誠

学生の頃、ファンタジーRPG好きで神話オタクだった私は、当然そっち系の本を読みあさっていた。聖書なら外典偽典、サガ、ケルト神話。また仏典や、古事記、コーラン、リグ・ヴェーダにも手を出していた。フィクションなら『指輪物語』や『ホビット』、『ナルニア国物語』（映画化万歳！）。銀河英雄伝説にもハマった。考えてみると、複雑で有機的な組織体である「世界」をワンセットで再構成しているもの（いわゆるハイ・ファンタジー）に惹かれていたような気がする。世の中の仕組み、社会というもののメカニズムに関心があったのかもしれない。

そういう人間だから、改めて「感銘を受けた本」といわれて困ったのだが、幸い一冊の本に思い当たった。『オシアン』（岩波文庫）。英国・スコットランドの北西、外へブリディーズ諸島にあった海洋国家群において、キリスト教受容以前から伝承された古歌を収集したものという。そこに描かれていた、「誰かに記憶されること」に最高の価値を見出し、戦い死んでいく、その姿を「格好良い」と感じたのだ。

そういえば、日本や中国には「人は死して名を残す」という言葉がある。また、経営学者P.ドラッカーは「何をもち記憶されたいか」を会社経営の基軸・求心力とすることを提唱している。してみると、大学生の私が直感的に「格好良い」と感じたものは、わりと一般的な価値観だったようだ。

神話学者J.キャンベルによれば、神話とは「人はいかに生きるべきか」を示すもの、である。私にとっての神話は、『オシアン』だったのかもしれない。同じくキャンベルによれば、スター・ウォーズは「神話」だそうである。素人の私も、エピソード4限定で、そうだよ、と思うのだ。

請求記号：IB／赤201-1

『星を継ぐもの』 ジェイムズ・P・ホーガン 著／池 央耿 訳／創元SF文庫

総合文化学群専任講師 齊川 仁

月面探査中の調査隊が、宇宙服を着た遺体を発見する。検視の結果、遺体は5万年前に死亡した事が判明、DNAの調査からも地球人の祖先であると思われる。

複雑に入り組んだ謎を、明らかな証拠と綿密な論理で解決してゆく主人公は、名探偵のようで、SF小説ではあるが、ミステリーの要素も、たっぷり入っている。加えて、人類進化における大いなる謎となっているミッシングリンクにも焦点が、当てられている。

SF小説というと、絵空事のような物語を想像しがちですが、本作は、科学的事実を土台にしていて、本格的な空想科学小説となっています。

この作品は、1977年に書かれていますが、物語に登場する科学技術が、今日、実用化されているものもあります。それを見つけて出すのも、読書する上での楽しみのひとつです。

50～60年代SF界はバラ色の未来を楽観視する作品にあふれていたが、70年代は、世界的な環境汚染等で、沈滞感に陥っていた。そんな中、『星を継ぐもの』は、正統派の復活を思わせるSF 作品として登場しました。

アーサー・C・クラークの、『幼年期の終り』が、人類の未来の話だとすると、ホーガンのこの作品は、人類がどこから来たのか、という過去を探る話となっています。

人類の起源に挑戦する壮大な物語を満喫して下さい。

請求記号：933／H81

魔法の呪文『だいじょうぶ だいじょうぶ』 いたうひろし 作・絵／講談社

健康福祉学群専任講師 大下 純

2012年4月より桜美林大学に赴任した私は、多くの「学生時代」を経験しています。短期大学を卒業して保育所保育士を経験した後、大学生・大学院生になりました。大学生の時、現役の保育士だった姉より、絵本を紹介される機会が度々ありました。その中の一冊を紹介したいと思います。

『だいじょうぶ だいじょうぶ』（いたうひろし 作・絵、講談社、1995.10.20 第1刷）これは、やわらかなタッチで描かれた絵本です。サイズは縦20cmという小さなものです。大人が子どもに読んであげる場合は、クラス全員を対象とするように、大勢に対して大きな声を出して読むのではなく、そっと子どもを膝に乗せて耳元に語りかけるように読む方が適していると思います。姉は私に紹介する際、「良い本だよ」と一言だけ告げました。何の気なしに読んでみると、すっかり胸がいっぱいになり、心も目頭も熱くなりました。魔法の呪文のように書かれている、「だいじょうぶ だいじょうぶ」という言葉が、とても大きな意味を含んでいると感じられました。

絵本は子どもが読むもの、子どものためのものとする大人は多いと思います。しかしこの『だいじょうぶ だいじょうぶ』は、大人が自分のために読むのも良いと思います。私は姉に紹介されてからすぐに、自分のために買い求めました。2006年10月に、この絵本は縦30cmの大きいサイズのものも、発行されました。もしかしたら、多くの子どもたちに読み聞かせをしたいという要望から、大きなサイズで発行されたのかも知れません。ぜひ子どもと関わる仕事を目指している人、また、そうでない人にも読んで欲しい一冊です。

請求記号：726.5/189

読書運動プロジェクト

図書館読書運動プロジェクト 2012 活動記録



2006年度から始まった図書館読書運動プロジェクト（以下、読プロ）は今年も様々な活動を行ってきました。昨年度、読プロで中心になって活動してきた学生メンバーたちが4年生になり就職活動などで忙しくなり、今年はほぼメンバーが一新されて活動が始まりました。自分たちから読プロに参加したいと図書館にやってきた1年生を中心に、昨年度、読プロ教員メンバーである片山博文教授の『統合科学基礎 読書会で学ぶ』の授業を受講していた2年生たちも参加し、新しいメンバーでの活動開始となりました。

読プロの基本である読書会の開催や、今では定番となった、読プロメンバーのオススメ図書フェア…三到図書館の読プロコーナーにポップとともに展示、貸出を行いました。読プロオススメ本は学生のみな

らず、教職員の方々にもファンがいるようです。

そして秋学期が始まるとともに、生協読書マラソンと連動した恒例『桜美林コメント大賞表彰式イベント』を企画しました。読プロでは、毎年このようなイベント企画と運営を学生たちが中心になって進めていきます。そして今回は『武士道シックスティーン』などでおなじみの人気作家、菅田哲也さんをゲストにお招きして、トークセッションと表彰式を同時開催しました。

イベントの準備と広報、集客、施設の手配、受付などなど、すべてが初めての経験だというのに、更にプロの小説家に最新作の疑問や質問をぶつけ、トークセッションを行い、観客にも楽しんでもらわなくてはなりません。そのために、読プロ学生メンバーは頑張りました。



左から、菅田哲也さん、石井さん、佐藤さん、渡辺さん

最初は何とかなるだろうと多寡をくくっていたようですがイベントを企画運営することの厳しさと現実がわかってくるにつれて、みんなの目つきが真剣に変わっていきました。私たち教職員メンバーから、まだ依頼が済んでいないのか、これじゃダメやり直し！などとダメ出しを食らって、しょんぼりしたり焦りまくったり。そして当日は多くの学生たちがこのイベントのために集まってくれました。

学生メンバーから活動を振り返って一言！

「読プロでの何よりの思い出と経験は、12月3日のトークイベント開催までの怒涛の1か月です。大変で、楽しくて、緊張して、にぎやかで、考えて、初めてだらけで、とにかく楽しかったです！そして、読プロのメンバーと活動を支えて下さった大学の先生方、生協職員のみなさん、図書館職員のみなさんに感謝でいっぱいです！これを読んでいるあなたもいっしょに読プロ盛り上げましょう！」

(山中きりんさん／リベラルアーツ学群2年)

「大学は、積極的に何かに携わろうと思ったらどこまでも深く関わられるし、その過程には色々な方が助けてくださる場所です。私は読プロを通して、普通に大学に通っているだけでは経験できない、たくさんの貴重な経験ができました。とても充実した1年が過ぎて良かったです。活動を通してお世話になった皆さま、本当にありがとうございました。新しい仲間を増やしたいです！」

(酒井明砂子さん／総合文化学群2年)

「夏に加わってから、あっという間でした。特に、12月に行ったイベントの準備は、人数が少ないこともあって大忙し。自分に割り振られた仕事することに精いっぱいでした。でも、イベントから得られたものは大きかったと思います。本を通じて、たくさんの人と出会えることが出来ました。読プロに入ってよかったと思います。新入生のみなさん、いっしょに活動しませんか？」

(佐藤ラクミニ瞳ウムッティさん

／リベラルアーツ学群2年)

「昨年度はメンバー全員初心者の中、読書会やイベント運営を行いました。課題も山積みですが、その分収穫と達成感も学生委員の大きな糧になりました。学業やアルバイトとの両立に正直忙しかったですが、今年度のさらに実りある活動への礎が築けたと思います。パワーアップを続ける読プロをこれからもよろしくお願いします！」

(石井優美さん／リベラルアーツ学群3年)



学内外からたくさんの方々参加了。

この読プロの活動は、大学の外へも広がりを見せています。法政大学の学生たちで組織されているライブラリーサポーターとの交流も始まりました。大学という枠を飛び越えて、広く交流ができるのも読プロの魅力のひとつです。

読プロは今年も図書館を舞台にして、大学に読書好きの学生を増やすために活動を続けます。これを読んでいるあなたも、読プロに参加して自分たちの手で読書イベントを作り上げてみませんか？

(課長 佐々木俊介)



図書館ガイダンス



■ 図書館ガイダンスについて

本学図書館では、「リベラルアーツセミナー」や「社会人基礎Ⅰ」といった授業と連携したガイダンスや、教員の希望によるゼミ単位の「情報検索ガイダンス」、図書館主催による内容別のガイダンスなどを行っています。また、個人を対象とした「卒論・卒研作成支援」も行っています。

図書館主催による内容別ガイダンスは、春学期は図書館ツアーとOPAC（蔵書検索）・新聞記事検索など基本的な利用方法について、秋学期はそれに加え、雑誌論文検索として雑誌記事データベースの利用方法を案内・説明しています。希望者は期間中、受講時間や内容を自由に選択することができます。

卒論・卒研作成支援は、おもに卒業論文作成や卒業研究をめざしている3、4年生を対象に、それぞれのテーマにそって文献・情報の収集方法やデータベースの利用方法などをわかりやすく説明します。

今回は「図書館内容別ガイダンス」や「卒論・卒研作成支援」を受講した学生さんに新入生に向け体験談を語っていただきました。

■ 図書館内容別ガイダンスを受けて

花塚 理沙（リベラルアーツ学群2年）

私は今回、授業で自主研究論文を書くことになり、資料やデータの収集、文献を検索するために、新聞記事ガイダンス、雑誌論文ガイダンス、OPAC検索ガイダンスの3つを利用させていただきました。私は一人で参加したのですが、図書館の方がパソコンを使いながら、一対一で教えてくださったのでとても分かりやすかったです。また、質問にも丁寧に答えていただきました。

新聞記事ガイダンスでは、現在の記事はもちろん、昔の記事がデータベースで見ることができるということを初めて知り、驚きました。自主研究論文を書くときの資料として、とても役に立ちました。また、図書館では新聞を取り扱っているということなので、時間があるときはなるべく利用したいと思いました。

雑誌論文ガイダンス、OPACガイダンスでは、雑誌や書籍の検索の仕方を教えていただきました。これから図書館を利用する際に、大いに活用していきたいです。

1年生の早い時期にこのガイダンスに参加することができて本当によかったです。これからの大学生活を充実させるための大きな糧になると思います。

■ 卒論・卒研作成支援を受けて

岡島あゆみ（リベラルアーツ学群4年）

論文を作成する時、何を書けば、いやそもそも何を調べれば良いのかわからない…。そんな時に私が助けられたのは、「卒論・卒研作成支援」です。夏目漱石『こころ』についてのゼミ論文を作成するのに私は悩んでいました。その時、ゼミの先生に紹介されたこの図書館のサービスを使おうと決めたのです。

図書館職員の方に相談して教えて頂ける情報は、図書・新聞・雑誌・論文などの検索方法です。他にも「テーマがうまく決まらない」など、簡単な相談にも乗って頂けます。分からないことがあればまずは申込をするところから始めてみましょう。優しく丁寧に教えて頂けます。

3年生ではゼミ論・ゼミ研究、4年生では卒論・卒研を作成する人も多いと思います。そんな時にはこの「卒論・卒研作成支援」を活用してください。卒論・卒研作成支援の申込方法は桜美林大学図書館のHPの「卒論・卒研作成支援のお知らせ」に書いてあります。活用しないともったいないですよ！

 図書館の思い出

桜美林大学図書館に関する思い出

前ビジネスマネジメント学群教授・桜美林大学名誉教授 佐藤 憲正

私が桜美林大学に勤めてから41年の長いようで短い正に波瀾万丈の月日が流れ、今年3月で定年を迎えることになりました。早稲田大学の博士課程3年の夏休み直前に恩師の古川栄一先生から御推薦を頂き、学部長・学科長の面接ということになりましたが、面接といっても、学部長先生のご自宅の応接間で桜美林の歴史や私の経歴などの情報交換程度のものでした。私が満州生まれのため、桜美林のルーツが中国にあるということで親しみを感じたこと、創設者清水安三先生の教育に対する情熱やロマンについてのお話を伺ったこと、また、同門の先輩が在籍していること等で、桜美林にお世話になる事になりました。

かくして、専任講師の1年生となったのですが、まず驚かされたのは、①研究室はプレハブ小屋の一室を二人で共同利用、②図書館は外見こそ他の建物より立派に見えたが蔵書は貧弱、③不本意入学者が多い為か学生に覇気が無い、④給与が極めて低い等でした。

このような中で、若手・中堅の教職員が教職員組合を結成し、私大教連の支援のもとに激しい組合闘争を展開して、わずか2年間で給与を約倍増することが出来ました。そのため、私は「一人前の給与を保証してくれたからには一人前の教育をしなければならない」と考え、研究・教育環境の充実を目的として、専任教員、非常勤教員の多大な協力のもとに「経済学会」という組織を結成し、その傘下にマーケティング、アメリカ経営、企業経営、中小企業問題、経営管理、簿記会計、税務会計、マルクス経済学、近代経済学、中国問題、アジア・アフリカ問題、中東問題、時事問題、男女平等問題、マルティメディア、コンピュータグラフィック、観光学会等々の多くの研究会組織を育て、情報関連の資格、販売士、中小企業診断士、税理士、公認会計士などの資格取得者を巣立たせることが出来ました。また、学園祭では、多くの研究会の研究発表会、市民のための教育問題、税務問題、商店経営問題、消費生活問題などの相談会を実施できるようになってきました。

かくして、研究・教育環境が充実していくに従って教室の雰囲気も変わり、学生達（特に、研究会の学生達）の図書館利用頻度が高くなり、貧弱な蔵書に対

する不満が強くなってきたため、私は経済学部の図書委員となり、それまでの特定の教員の都合による恣意的な選書形態を改め、カリキュラムに沿った選書や研究会の学生からの購入希望図書の充実の必要性を教授



会で強く訴えました。更には、文部省の単位認定の基準では「1.5時間の授業の単位認定のためには4.5時間の自習を要す」と規定されており、その目的のためにこそ付属図書館の存在意義が有ることを強く主張し、選書基準の根本的見直しを教授会で承認して頂きました。そしてまず、図書館職員の協力のもとにカリキュラムの各科目に対する既存の蔵書リストを入念に調べたところ、科目によっては蔵書が数冊、或いは全く無いという実態が判明しました。そのため、それらの分野の文献の充当を行うと同時に、学生・研究会からのリクエストを頭に入れながら、多くの出版社から送られてくる全ての新刊目録をチェックし、図書予算の効率的運用を目指して夜遅くまで調整作業をしたことを懐かしく思い出します。ご協力頂いた図書館の職員の方々に改めて感謝申し上げます。

その後、図書館は情報化が促進し、視聴覚資料も充実してきたようですが、経済学会や研究会組織の崩壊、卒論を書く学生の減少等により、図書館に関連する教職員の尽力にもかかわらず利用者数の伸び悩みで苦戦している事は寂しい限りです。また、図書委員の先生が、教育・研究環境の整備・充実のため、図書予算の執行進捗状況が遅れていることを教授会で再三にわたり注意を喚起しなければならない状況には寂寥感を禁じ得ません。

とはいえ、情報化・グローバル化時代の進展と共に教育・研究のための情報センターとしての図書館の役割はますます重要になってくることは必定と思われれますので、図書館に関連する教職員が核となり、諸先生方の協力を得て、学生達のために、時代の進展に適応した図書館システムの精緻化のため、更なる尽力を頂くよう切に願ってやみません。

図書館探検オリエンテーリング



「図書館探検オリエンテーリング」は、図書館に掲示されているクイズに答えながら図書館を探検するものです。図書館にはどんな資料があるのか、また、その資料はどこにあるのかといったことに重点をおき、図書館に親しみをもってもらい、利用促進を図ることを目的としています。

図書館では、毎年新入生（一部）を対象に、4月から7月にかけて「図書館ガイダンス」の中で図書館ツアーを行っています。しかし、大学に入って間もない期間でもあり、全員に興味を持ってもらうまでには至っていないのではないかと思います。そのためか、ツアー後のレファレンスカウンターには「この本はどこにありますか」、「新聞はどこにありますか」といった初歩的な質問が少なからず寄せられます。そのような状況を改善するための方法として昨年「図書館探検オリエンテーリング」を実験的に行ってみました。

「図書館探検オリエンテーリング」の利点として次のことが考えられます。

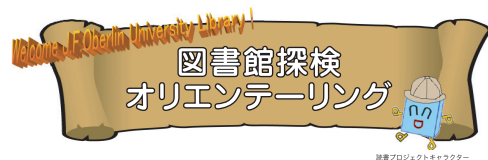
- ▶ 自分で体験しながら学習をするため、記憶として残りやすい。
- ▶ 検索のしかたを知らなくても、どんな種類の資料があるかがわかる。
- ▶ 自分の都合のよい時間に行うため、学業のさまたげにならない。
- ▶ OPAC（蔵書検索）等が有効に活用できる。
- ▶ ブラウジング（本棚を眺めて気になる本を手にとって見ること）による資料探しの体験ができる。

参加してくれた学生の感想はおおむね良好で、今まで知らなかった場所に初めて入ったとか、とても楽しかったなどという意見が寄せられました。

今年度は、「図書館探検オリエンテーリング」を図書館ツアーと併用し、また、新入生中心に広く宣伝し、図書館利用のきっかけにしたいと考えています。

新入生のみなさん、ぜひ参加してください。

（中島眞由美、鬼沢恵子）



桜美林大学図書館によるご案内！

「図書館」というと少々敷居が高いイメージがあるかもしれませんが、しかし、図書館の中に入って細かく資料をみると、様々なジャンルの図書・雑誌・DVDなどが並び、実はそうでもない場所だということに気がつくはずですよ。

このオリエンテーリングを通じて、桜美林大学図書館の色々な本棚・場所を探検し、発見してください。

● 編集後記 ●

今年の大学入試センター試験の最終結果発表によると、国語の平均点が過去最低だったようだ。その理由として、今回出題された小林秀雄（1902～83）の随筆が、今の高校生にとっては難解だったからではないかと言われている。小林秀雄は近代批評の神様と言われた批評家で、私たち中高年世代には馴染みが深く、また個人的には難解な文章を書く人という印象がある。大手予備校では、今回の出題意図として、いろいろなスタイルの文章を読み解くことが必要というメッセージでは？と分析している。難解でも平易でも、文章力を身につけるには読書と作文、すなわちインプットとアウトプットが重要だ。そのためにも学生時代に図書館を存分に利用して読む力、書く力を身につけてほしい。現代社会はますますグローバル化していく。そこでは今まで以上にコミュニケーション能力、相手を理解する能力、自分を説明する能力が必要とされるだろう。その第一歩として読書に親しもう。そのために大学には図書館があり蔵書がある。（S）